

## 事例検討①

テーマ：『歩行訓練士の魅力を伝えるには』

発表者：神屋 郁子 氏（大分県盲人協会）

### 【概要】

大分県での歩行訓練事業内容やご自身の日々の対応状況から、「白杖選定相談のあと使用方の練習を勧めるも実際に連絡がないことが多い」「訓練・訓練士・手引きなどの名前では内容が伝わりにくい、他の名称であれば印象も違うのではないか」「あとはガイドヘルパーさんと練習をするという当事者の事例」「白杖に対する抵抗感への対応」などの事例や問いかけをいただいた。

それをもとに、下記のテーマについて、30分間ほどグループワークを行った。

- ① 歩行訓練士の魅力の伝えかたについて
  - ② 「歩行訓練・歩行訓練士」という名前について
  - ③ 同行援護との違いについて
  - ④ 地域に1人しかいない歩行訓練士について
- いくつかのグループから下記の意見や感想などがあった。
- ① 「成功体験を積んで、できることが増えたという気持ちを積み重ねてもらおう」  
「訓練のなかで魅力を伝えていく」
  - ② 「歩行訓練士名もネームバリューになる場合や地域もある」  
「対象者によって言い換えることもできるのではないか」
  - ③ 「訓練回数が限られている場合や家族がサポートできない場合、訓練終了後の見守り歩行はありがたい存在になることもある」  
「訓練を受けて一人で歩くことも同行援護利用も本人の選択肢」
  - ④ 「人口30万人地域で最低でも1~2名いると良いのでは」  
「指導員は男性女性といると、同性支援がしやすい」

どのテーマも誰もが直面し課題となる内容であった。神屋さんの事例発表をきっかけに、グループ内でもご自分の地域での状況を話されているところもあった。人材的にも少ない職種であるため、気軽に相談したり話せる機会を作る必要性を感じた。

